（７）新たな情勢等への対応

① とちぎグリーン農業の推進

○ とちぎグリーン農業サポートチームを設置

- 「とちぎグリーン農業」の一層の推進を図るため、県内7地域において、市町・JAと連携し、環境負荷低減に取り組む農業者（みどり認定者）等の課題解決を支援する「グリーン農業サポートチーム」を設置しました。
- 令和7（2025）年度は、環境負荷低減に取り組もうとする農業者等を対象に、みどり認定の計画策定支援や消費者との交流会の開催などに取り組みました。
- 今後も、関係機関との連携を強化し、引き続き環境負荷低減に取り組む農業者等を支援していきます。



市町・JAと連携した会議



消費者との交流会

（経営技術課）

○ みどり認定の拡大

- 「みどり認定」は、化学肥料・農薬の使用低減などにより、環境負荷低減に取り組む農業者や農業者組織を認定する制度です。
- 県内では、関東で最も多い1,975名（R8.3末時点）の農業者がみどり認定を受けており、畜産分野でも組織で認定を受ける事例が生まれるなど、取組が拡大しています。
- 農業者の環境負荷低減の意識向上にもつながるため、引き続きみどり認定者の拡大を推進していきます。



組織でのみどり認定の取組



畜産分野でのみどり認定の拡大

（経営技術課）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

① とちぎグリーン農業の推進

○「みえるらべる」を活用した消費者理解の促進

- 「みえるらべる」は、農産物の温室効果ガスの削減貢献度をラベル表示して「見える化」する仕組みです。
- 農業者の環境負荷低減の取組を消費者に理解してもらうため、県庁内のレストランで「みえるらべる」の登録を受けた農産物を使用したメニューフェアを開催し、多くの来客がありました。
- 引き続き、「みえるらべる」等を活用し、消費者理解の促進に取り組んでいきます。



食堂でのメニューフェア



みえるらべるを添付したパッケージ

（経営技術課）

○「みえるらべる」を系統出荷組織として初めて活用（上都賀地域）

- JAかみつが日光特別栽培米研究会は環境保全型農業直接支払交付組織として、平成24（2012）年から減農薬・減化学肥料栽培に継続して取り組んできました。
- 農薬・化学肥料の5割低減、機械除草の実践が温室効果ガス削減に繋がる緑肥施用及び生物多様性保全の取組として認められ、「みえるらべる」活用が可能となり、令和7（2025）年産米から表示しています。
- 今後も「みえるらべる」を活用し、環境にやさしい栽培方法で生産した米のPRと新たな販路開拓を図ります。



視察研修会

（上都賀農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

① とちぎグリーン農業の推進

○ 大豆の収量確保に向けた取組（上都賀地域）

- 猛暑による大豆の収量及び品質低下が課題となっていることから、大豆根粒菌資材を用いた展示ほを設置し、生育や収量への効果を検証しました。
- 播種前に種子粉衣したところ、生育には問題なく、増収効果が確認されました。
- 根粒菌の利用は、資材費や種子粉衣の労働経費などコストはかかりますが、所得向上による経営改善効果が期待できます。



種子粉衣した根粒菌資材
（茶色粉状が根粒菌）



根粒菌接種の着莢効果
（左が接種区）

（上都賀農業振興事務所）

○ グリーン農業の推進（下都賀地域）

- 野木町では、令和6(2024)年4月に野木町グリーン農業推進協議会を立ち上げ、町全体で環境に配慮した農業の推進を目指すとともに、有機農業の生産活動の拠点となる特定区域を設定しています。
- また、農業の環境負荷低減と収益性の向上に向け、有機栽培技術講習会の実施や学校給食への有機農産物献立の導入のほか、小中学生を対象とした農業体験や料理講習会の開催などの取組を展開しています。
- 今後は、有機農業の面積拡大や学校給食への有機農産物等の利用促進に向けた取組を進めていきます。



有機農業現地セミナー



学校給食有機農産物給食献立
（下都賀農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

① とちぎグリーン農業の推進

○ 土地改良区から広がるカーボンニュートラル ～Jクレジットの新展開～（下都賀地域）

- 思川西部土地改良区では、令和8(2026)年度から中干し期間を延長し、水田からのメタン排出を抑えて削減量をクレジット化するJクレジット制度の試験的取組を開始し、令和9(2027)年度から本格実施します。
- 本取組により、農業者は副収入を得るとともに地域の環境価値を「見える化」できます。県内での大規模な実施は初めてで、誇れるふるさとづくりへの挑戦です。
- 今後は制度理解の促進と取組拡大を進め、持続可能な農業と地域づくりを次世代へつなぐ取組として、管内への波及を図ります。



中干し中の田んぼ



ＩＣＴ機器で測定

（下都賀農業振興事務所）

○ 有機農業研修会の開催（塩谷南那須地域）

- 環境負荷の低減と持続可能な農業生産の実現に向け、有機農業の拡大を推進しています。
- 令和7(2025)年度は、農業者が有機農産物の生産や需要動向の理解を深めるため、有機農業実践ほ場の見学や有機農産物を扱う流通業者との意見交換を実施しました。
- 引き続き、研修会の開催や各種事業の活用推進等を通じて、有機農業の拡大に取り組んでいきます。



ほ場見学会



研修会

（塩谷南那須農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

① とちぎグリーン農業の推進

○ 研修会によりグリーン農業を推進（那須地域）

- 生産者や関係機関・団体におけるグリーン農業及び有機農業に対する理解促進を図るため、研修会を2回開催しました。
- 7月の研修会においては、みどり認定を取得した生産者による取組事例の紹介を実施した。また、1月の研修会においては、大田原市と共同で開催し、天鷹オーガニックファームによる講演に加え、有機農業の実践者による事例紹介を行いました。
- みどり認定や環境保全型農業への理解が深まり、取組が広がることを期待しています。



グリーン農業研修会(７月)



有機農業推進セミナー(１月)

（那須農業振興事務所）

○ もみ殻くん炭の水稲育苗培土利用試験（安足地域）

- GHG排出削減策である「バイオ炭の土壌施用」を推進するため、育苗培土へのバイオ炭の利用を検討しました。
- 佐野市の水稲農家の協力を得て、バイオ炭培土（株式会社TOWING製）を水稲育苗箱に詰めて播種、育苗しました。田植え時の生育は慣行の育苗培土と大差なく、収穫期の生育・収量にも大きな差はありませんでした。
- 今後、更に試験を行い、バイオ炭の土壌貯留の取組の一助にしたいと考えています。



バイオ炭培土の出芽
（4月30日）



収穫期の状況

（安足農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

② 食と農の理解促進と地産地消の拡大

○ とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進方針を策定

- 本プロジェクトは、令和6（2024）年8月から開始した、県民一人ひとりがとちぎの食と農業を応援する『もう一歩踏み出す行動』を促す県民参加型運動です。
- 8月20日に開催した「令和7年度とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進協議会」において、推進方針を策定しました。
- また、とちぎの食や農業をもっと身近に感じてもらえるよう、令和8（2026）年2月にSNS「note」を開設し、食を支える生産現場に焦点を当てた記事等を公開しました。今後も行動変容に繋がる情報発信に取り組んでいきます。



公開した記事

（農政課）

○ 環境に優しい“米”の理解促進（河内地域）

- 環境にやさしい栽培技術を取り入れた「グリーンな栽培体系」を目指し、炭素貯留効果をもつバイオ炭（もみ殻くん炭）を活用した栽培技術の普及を進めています。
- もみ殻くん炭を施用した水田で生産された米「バイオ炭米」のPRと試食（計約800食）を、うつのみやグリーンマルシェ及び宇都宮市農林業祭で行い、温室効果ガス排出削減の取組への理解醸成を図りました。
- 今後も、水田へのもみ殻くん炭施用技術の検討を進めるとともに、消費者への理解促進に取り組んでいきます。



うつのみやグリーンマルシェ



宇都宮市農林業祭

（河内農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

② 食と農の理解促進と地産地消の拡大

○ 宇都宮食育フェアでの農業の魅力発信（河内地域）

- 地域の農産物や農業の魅力を広く発信するため、第20回うつのみや食育フェアに出展し、パネル展示・クイズ・VR農業体験を行いました。
- 来場者からは、「地元農産物の魅力を知ることができた」「VRでの農作業体験が楽しかった」など、嬉しい声を多くいただき、地域農業に対する理解や関心が高まっていることを実感できる機会となりました。
- 今後も、より多くの方に農業への興味や関心を持っていただけるよう、楽しく学べる場づくりを進めていきます。



ブースの様子



VR体験

（河内農業振興事務所）

○ 農福連携による食と農の理解促進に向けて（塩谷南那須地域）

- 塩谷町のたかはらユニバーサル農業推進協議会は、障害者の農業体験受け入れを通して、食と農の理解促進と障害者の心の安全と成長を目指しています。
- 環境整備の一環として、事業を活用して仮設トイレを設置し、利用者の福利厚生に取り組みました。
- 構成員のクローバーハーツ農園において、障害のある方やその家族の農作業体験を受入れ、癒やしや人と社会のつながりを感じる場として、今後の参加者の定着と拡大が期待されています。



里芋掘り体験の様子



設置した仮設トイレ

（塩谷南那須農業振興事務所）

関連施策

（７）新たな情勢等への対応

③ 安心・安全対策の推進

○ 農産物の安全・安心対策研修会の開催（河内地域）

- 安全で信頼性の高い農産物を出荷するための知識習得を目的とした研修会を開催し、農産物直売所の出荷者や関係機関・団体が参加しました。
- 専門家から農薬事故の防止、基準値超過事例とその対応、ラベル表示の正しい読み取り方、農薬の飛散防止技術、散布器具の洗浄方法などを学びました。
- また、山菜など特定品目を出荷する際の留意点や、有毒植物・クビアカツヤカミキリへの注意喚起など、現場で求められる最新情報の共有を行いました。
- 今後も、消費者に安全・安心な農産物を届けていけるよう、地域一体となり取り組んでいきます。



研修会　（河内農業振興事務所）

○ 産直活動セミナーを開催（塩谷南那須地域）

- 都市農村交流施設の管理者や農産物生産・出荷者などを対象に、産直活動の活性化と農産物の安全・安心の実践を目指して、セミナーを開催しました。
- セミナーでは、道の駅の取組事例から地域の活性化や農産物販売のテクニック、商品の安全・安心対策の実践を学びました。
- 更なる安全・安心の取組の実践に向けて、各直売所の自主点検実施や栽培管理における農薬の適正使用を目指します。





（塩谷南那須農業振興事務所）